

## デジタル時代の歯科技工士に必要な対応・対処・対策 ～ジルコニアからデンチャーまで～

歯科にデジタルが応用され始め早くも 20 年以上が経過している。

CAD/CAM 冠が保険に導入されると同時に歯科のデジタル化は加速し、昨今では IOS (口腔内スキャナー) の保険収載とともに IOS を導入する歯科医院も以前にも増して増加している。

新しいことに取り組む場合、やはりトラブルや不具合などは付きものではないだろうか？また歯科技工所だけでなく取引先の歯科医院も新しい事に取り組む場合は尚のことである。そのようなトラブルや不具合が起こった場合に大切なことは、そのトラブルに対する対応と対処そしてトラブルが起こらないための対策ではないだろうか？我々歯科技工士がデジタルを活用して製作する歯科補綴物はジルコニアや二ケイ酸リチウム(e. max)、CAD/CAM 冠やデンチャーなど多岐に渡り、そのトラブルも様々である。

そこで今回は、ジルコニアや二ケイ酸リチウム(e. max)そしてデジタルを活用したデンチャーについて、それらをデジタルで製作する方法を紹介するとともに、製作する上で起こりうるトラブルや不具合を解決するため、私自身が取り組んでいる方法について症例を通し解説したいと思う。

廣末 将士

◇略歴 1985 年生まれ

2007 年 福岡医科歯科技術専門学校 (現：博多メディカル) 卒業

2008 年 大阪セラミックトレーニングセンター 宮崎校 卒業

2009 年 (有) セイブ歯研 勤務

2013 年 ivoclar vivadent C&B インストラクター 就任

2018 年 大阪セラミックトレーニングセンター 宮崎校 同窓会会長 就任

2021 年 (有) セイブ歯研 父より事業承継し代表取締役社長となる

◇所属

日本歯科技工学会

日本口腔インプラント学会

日本顎咬合学会

日本歯科技工士会

福岡技工研究会

STEP

WGG

◇資格

ivoclar vivadent C&B インストラクター

BPS 認定技工士